

子どもたちにゆたかな学びを保障する教育実践を

日本教職員組合 中央執行委員長 清水 秀行

こんばんは。日教組第 71 次教育研究全国集会に、全国各地からご参加いただきました皆様、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の収束も未だ見えず、子どもと日々接する教職員が一堂に会することは感染拡大のリスクを負います。そして、公立学校共済組合の直営病院と、そこで働く仲間を守ることも重要です。さらに、1 月に入ってまん延防止等重点措置が適用されるなど、新型コロナウイルスの全国での急激な感染拡大、特にオミクロン株の海外での感染拡大も含めて終息への道筋はまだまだ見通せない厳しい状況です。全国でのさらなる感染拡大が予断を許さない情勢に鑑み、今次の全国教研は、本日の Web による全体集会と、明日・明後日の Web による分科会の開催としました。

昨年実施を見送った分科会を今次開催できることは大変意義あることですが、討議時間の短縮やレポートの共有の仕方、リポーターに限っての討論となること、特別分科会を行わないことなど、例年にない形での分科会の運営となりましたことに、ご理解、ご協力をお願いいたします。全国どこからでも、自宅からでも参加できるという Web 開催の利点を最大限にいかし、多くの組合員の皆様にご参加いただいていることに、改めて感謝を申し上げます。また、年間を通じて教育研究活動を支えていただいている共同研究者・司会者の皆様にも感謝を申し上げます。

集会開催にあたり、メッセージをお送りいただいた日本労働組合総連合会：会長・芳野友子様、文部科学大臣・末松信介様、日本 PTA 全国協議会：会長・清水敬介様をはじめ、関係団体の皆様に心より御礼申し上げます。また、Web での参加をお申し出いただいた連合の仲間、関係団体の皆様にも感謝を申し上げます。

全体集会でお世話になります手話通訳者、取材していただくマスコミ関係者の皆様には、最終までよろしくをお願いいたします。

毎年、豪雨災害や台風、大雪など頻発する自然災害によって全国で甚大な被害がもたらされています。大規模災害は、いつでもどこにでも起こりうる危険性があります。昨年来、日本はもとより地球規模の地殻変動による地震や気候変動による温暖化などの影響が頻発しています。人間社会の生活廃棄物の投棄などによる環境破壊も深刻です。私たちは、人々の命と生活が脅かされる事態への対応と、「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現とを見据えてしっかりと議論を重ねていくことが必要です。

新型コロナウイルスは、日本の社会や経済に深刻な影響を与えています。2年に及ぶ新型コロナウイルス感染症の影響によって、学校では、登校そのものを控える子どもや給食時間の短縮、オンライン授業の併用による分散登校など、様々な状況が報告されています。学びの機会が制限され、子どもたちは大変な我慢を強いられたり、心身のストレスや将来への不安を抱えたりしています。教職員は、そうした子どもたちに寄り添い、「3密」回避や消毒作業など安心・安全な環境の維持に努め、教育課程や行事の変更、就職や入試・進学への対応など様々な課題に直面しながらも、ゆたかな学びのために日々の教育活動を行ってきました。このような時だからこそ、子どもたちにゆたかな学びを保障する教育実践について、全国の教職員が集まり、現場の状況やとりくみを共有し議論する場として、全国教研の果たす役割は大きなものです。各分会や支部・専門部・単組で積み重ねた教育実践を分科会での討議を通じて深めるとともに、次年度の教育研究活動につなげていきましょう。

長期にわたる休業が続く中、「遠隔・オンライン授業」が様々な形で実践されました。昨年度の一斉臨時休校をきっかけに「GIGA スクール構想」が加速され、小中学校においては1人1台の端末がほぼすべての学校で整備されました。これから生きていく子どもたちにとって、ICTとのかかわりは避けられない状況にあります。また、AIやIoTなどデジタル革新の時代を見据え、プログラミング教育の必修化とともに、ICT環境の整備、先端技術の活用がすすめられています。ゆたかな学びをバックアップする手立てとして利活用すべきであり、子どもの思いや考えを出発点とし、子どもを中心に据えた教育研究活動・教育実践につなげていかなければなりません。

ゆたかな学びを保障するためには、教材研究や授業準備の時間、子どもの学習状況の把握や支援等、時間的・精神的なゆとりが必要不可欠です。常態化・深刻化した長時間労働の是正は、ゆたかな学びにも直結した課題です。「義務標準法」の40年ぶりの改正により、21年度から順次展開されている小学校の35人学級の早期完全実施と中学校・高校も見据えたさらなる少人数学級の進展が必要です。また、小学校での教科担任制や持ち授業時数の上限設定など、具体的な定数改善につながる方策も求められます。

教職員自らが力量や専門性を高める教育研究活動は、国際的に高く評価されています。平和・人権・環境・共生を基調に、社会的対話をすすめながら、子どもを中心に据えた教育研究・授業実践を、よりいっそう充実・発展させてまいりましょう。

最後に、今次の全国教研に参加されたことを一つの契機として、70年余りにわたる教研活動の歴史と成果を学び、その重要性を再認識するとともに、次世代への継承をすすめ、第72次全国教研へとつないでいくことをお願いし、主催者を代表してのあいさつといたします。